鎧橋随想

日本一

石橋生絲社長
石橋　昭彦

今年のプロ野球日本シリーズは、負なしの4連勝で原監督就任1年目の巨人が優勝し、日本一となりました。西武は、前身の中西、豊田、稲尾のいたあの豪快な西鉄時代から好きなチームでありますし、巨人も名監督であった藤田時代から好きなチームです。

戦前はこの両軍がさぞかしすごい戦いを7戦一杯にするだろうと思っていましたが、結果は皆様ご承知の通り全く呆気ないものでした。巨人は戦力的に投打共秀れたよいチームですが、昨年とメンバーはあまり変わらないのに日本一となったのは、原監督の采配が全てであったと思います。

故障上りの清原を大活躍させ、二岡にMVPを取らせ、河原を胴上げ投手に起用して見事な采配でした。野球チームと会社は違いますが、会社経営もこのようにうまくマネージメント出来たらなあと思った次第です。

ところで巨人と西武の人気2球団が日本シリーズでぶつかった年(昭和62年、平成2年、平成6年)はいずれも景気拡大局面でした。今回も景気を後押ししてくれる効果を期待します。あの銀座での巨人の大パレードの大盛況がその前哨戦でありますように願っております。

ガーディニング

第一商品社長
鈴木　明夫

数年前、テレビでベランダにガーディニングができるまでを放映しているのを見て、「我が家のベランダは」と見るといかにも殺風景で冷たい。そこで家内と相談しお互いの鼻より花を見ようということで、休日になると近くの園芸店へ通うはめになってしまった。

まず木製ウッドデッキを敷き、ラティスフェンスを立てた。それだけで雰囲気がガラリと変わり、心が和むので不思議であった。紅葉がきれいな楓、竹の鉢植えを右端に置き、日当たりが悪い下のプランターには観葉植物でグリーンがきわだつアスパラガス・ブルモーサス・ナヌス。ベコニア、サフィニアは日当たりのいいフェンスの上位に掛け、孫が来たときに喜ぶだろうと、鉢にセトモノでできた七人の小人をぶら下げた。

最後は立派な花をどう咲かせるであったが、見事失敗したので全てを家内にバトンタッチし、今では季節ごとに花満開。

家内に花咲かせの蘊蓄を聞かされる。「花は咲きたがっており、杓子定規に水をやればいいというものではない。花に触れ、状態を知り、対話をし、必要以上に世話をやかず、愛情をもって接する」のだそうだ。誰かにもそうであってほしいと思う今日この頃である。

散策

北辰物産社長
松尾　碩男

ゴルフ以外歩く事が少ない私は、出来る限り散歩することを心掛けている。

皇居を右手に千鳥ヶ淵を散策するのは最高だ。日曜の午後は意外と車の数が少ない。春は桜が満開なのは有名だが、今の季節も良い。木々の紅葉も一段と進み、風に吹かれた枯葉が舗道に舞い落ちる。冬の気配がする今年の秋は短い気がする。

北の丸公園から九段坂に出ると、靖国神社の境内に続く。年に何度か植木市が露店に並ぶ。茶店で一息し団子を食べるのも楽しい。

本殿で合掌を済ませ、右手に能楽堂を見て正面に遊就館がある。近代の歴史を映画と共に詳しく解説してくれる。当時の展示品もあるが、特に、若くして亡くなった人の白黒の写真の数々で、中には女学生もいる。全て凛々しい顔だ。頭の下がる思いがすると同時に、私の息子や娘と、かなりの違いだ。

それはともかく遊就館を出て右側に〝神池〟と云う明治以来、管理された日本有数の庭園がある。本当に気持ちが和らぐ。茶室の左に梅林道があり、両脇に大木が覆い繁り、〝献木〟された桜や、梅の木が並ぶ。静寂さが不思議な程だ。東京にも結好良い散歩道もあるものだ。若者達も足を運んでもらいたい。

故郷を思い出す

ニチメン
非鉄・貴金属市場部長
伊藤　和眞

先日、同業の総合商社M社から拙宅へ厚い封書が届いたので開けてみると、内容は「貴殿の所有名義の山林の一部が当社が行う風力発電事業に伴う搬入道路の一部になるので借地契約を結びたい」というものでした。

もちろん、郷土の発展のためでもあり、返答は決まっています。封書の中にある地図と写真を見て、ここ10年近く会社と私事にかまけて訪れていないこの故郷の山の頂きから見える油谷湾と日本海に浮かぶ見島の景観が蘇ってきて、幼い日から少年時代の情景を懐しく思い出すことができました。

私の故郷は山口県の西北部、下関から山陰本線で萩へ行く途中の大津郡油谷町という所で、絵葉書のような素晴らしい景色と豊富な魚貝類と温泉以外特に自慢できる物はありません。

父母も早くに亡くなり、兄弟誰も住んでいない田舎ですが、来年の夏は家族を連れて帰省し、墓前に長きの無沙汰の許しを得ようと思っています。

不信心の私ですが、不景気に種々思い通りに行かない事が重なる近頃ですので御先祖様への供養が足りない所為かとも思っています。ところで業界の方で山口県出身の方がおられましたらなにかの機会にお声をかけてください。

拝見・東穀取の守護神、魁神社

波瀾万丈を見守って100年

東京穀物商品取引所の屋上にある魁（さきがけ）神社は東穀取の守護神として、130年の歴史を持つ。江戸時代には姫路藩主酒井雅楽頭の中屋敷内にあったが、明治7年（1874）に中外商行社（東穀取の前身）が誕生して以来、穀物市場内に鎮座し、市場の盛衰を見守っている。

毎年、2月初午の日と10月1日には祭礼がしめやかに執り行われる。この日は堀留の椙森神社から宮司が出張して、祝詞を捧げ氏子総代の森實孝郎理事長以下、氏子（主に東穀取会員）40～50名が参加し、市場の繁栄を誓い合う。

この時、宮司によって高らかに打ち鳴らされる太鼓には「東京米穀商品取引所、同取引員組合」と太書してある。社殿は関東大震災で焼失したが、太鼓も一緒に焼け、大正13年（1924）に新調した。もうすぐ傘寿を迎えようとしているが、今も元気な音を蛎殻町の空に轟かせている。

魁神社

大正13年新調の太鼓

魁神社をいちばん熱心に信仰しているのは元東穀取専務理事の森川直司氏で自ら興した会社を「魁」と命名、毎月一日には参拝しているそうだ。森川さんは「東穀取が波瀾万丈を乗り越えて今日あるは魁神社のおかげです。それと、昭和62年のビル改築で神殿が屋上にまつり上げられ、淋しそうで……」と信仰理由を話していた。

「魁」には「かしら」「大きい」「すぐれた」といった意味もあって縁起のいい言葉だが、それにもまして、市場の先見性を表す先物業界には打ってつけの名称である。

黄金の話題大追跡、第8弾放映

テレビ東京系全国6局で

東京工業品取引所と東工取先物振興協会が平成6年からテレビ東京系の全国6局で放送している特別番組、「黄金の話題大追跡」の第8弾「人類の偉大な財産〝金〟の新時代が始まった」が11月24日、午後4時から同5時15分まで放映された。

オープニングでは、米国同時多発テロをきっかけとする国際情勢の緊迫、日本の金融不安などで「金」の新たな時代が始まっていると解説、金にまつわる多くの話題を追った。

次いで、16ヵ国460人が参加した日本初の「世界砂金掘り大会」（北海道浜頓別町）の模様をみせ、加賀百万石前田家ゆかりの金沢金箔、黄金の鎧兜、山形県白鷹町最上川の小判発見など紹介した。

さらに、金相場の読みを的中させて莫大な財産を築いた米国の伝説の男の暮らしぶりや、カンボジア難民が金のおかげで料理店で成功した例なども取り上げた。

内外の取引所紹介や先物取引の解説も盛り込んでいる。

世界砂金掘り大会風景

◆事務局だより◆

当先物協会では、モーニングスター社ホームページの金融モールサイトで『商品先物』を紹介しておりますが、12月中旬には新たに協会員各社の本支店が所在地別、取扱商品別に検索できるシステムが加わります。店舗所在地の地図も表示できます。開設に際しては、会員の皆様にご案内いたします。

http://morningstar.co.jp

『商品先物』サイトへの要望がございましたら、先物協会事務局へお気軽にどうぞ。

証言・戦後先物史

大震災と神戸ゴム（2）

大阪商品取引所常務理事　井端博人

神戸市中央区播磨町にあった取引所ビル

臨時理事会を大阪で開く

――1995年1月17日、巨大地震が神戸ゴム取引所を直撃、被災当日は臨時に立会を停止しました。でも、神戸での市場再開のメドが立ちません。どうしました。

井端　長く市場を休んだら神戸ゴム取は消えてしまう。なんとしてでも早く市場を再開させたい。市場関係者全員の思いでした。

最初の仕事は取引所の被災状況を確認することでした。被災翌日の18日午前9時、林慶一郎常務理事（以下は当時の役職による）は危険をおかして再度神戸取引所ビルに入りました。四階の立会場と事務所は、足の踏み場もないほどの散乱ぶりでした。もちろん、コンピューターのハードも損傷していました。

取引所会員から林常務理事宅に、当時の通産省商務室から早急に今後の対策を立てるよう指示を受けた旨の電話がありました。そこで、19日に大阪で臨時理事会を開くことにしました。

――阪神大地震は直下型で、大阪は無事でした。大阪繊維取引所（現在の大阪商取）と関西農産商品取引所（現在の関西商取）は17日に市場休止しただけでした。

井端　19日、大阪繊取の会議室を借りて臨時理事会を開き、次の事柄を決めました。

1月限と2月限を1月13日の引け後節の値段で解け合う。

3月限以降については、コンピューターを立ち上げる職員を大阪に配置。場勘定決済について関係銀行と協議し、手はずが済みしだい大阪繊取の立会場を借りて取引を再開する。

神戸ゴム取災害対策本部を大阪繊取内に置く。

その臨時理事会の決定事項を電話で通産省商務室に報告しました。一方、三菱事務機とコンピューターの復旧について話し合い、事務局職員に大阪に集まるよう指示しました。

――早々と市場再開に向けての道筋が決まりました。ホッとしたでしょう。

井端　緊急時だといっても、大阪繊取から全面的に協力するという言葉をいただいたときは本当にうれしかった。臨時理事会に出席した会員理事から、若い者が先頭に立って市場再開の準備を進めてほしいと声を掛けられました。気分の沈みがちなときで元気づけられました。

（つづく）